

< 練習・救助艇当番の役割 >

安全技術委員会

任務時間:

4月～10月までは朝9時

11月～3月までは朝10時迄にはハーバーへ集合してください。

のこのこ艇長:

各チームリーダーは「のこのこ」の操船技術をマスターしている事が必要です。

操船資格者(艇長)は、安全技術委員長が認定します。(船舶免許所有だけでは操船できません)

(チームリーダーは多くの操船資格者を養成してください)

レスキュー艇への乗艇は2名ないしは3名を原則とします。

(定員は7名ですが、多過ぎると船のバランスが極端に悪くなります)

チーム内の操船資格者により、午前と午後の乗艇を分ける等、工夫してください。

チームリーダーの役割:

担当当日の練習メニュー、出艇判断、ならびに救助艇の管理・安全、最後の見回り等が任されます。

判断に迷う場合には、代表、安全技術委員長へ相談してください。

役割:

9:00(10:00)チーム内で役割確認(救助艇搭乗者・陸上での艀装および出艇援助 等)

レスキュー艇搭乗者は、仕業点検・燃料補給などを並行して実施する。

9:30(10:30)全員ミーティング

(乗艇割・交代スケジュール・出艇申告書記入・練習海域確認・練習メニュー・準備体操)

(レースの場合:レース参加登録、レース委員長の説明)

(お昼の帰着時間等を明確にしておくこと)

10:00(11:00)全艇の出艇を確認後にレスキュー艇を出艇させる。

16:00(15:00)全員帰着の時間(原則)といたします。

(レスキュー艇は全員のスループへの帰着を確認後にポンツーン(定位置)へ戻してください。

帰着後は、レスキュー艇内の清掃(ゴミは残さない)、アンカー整理、燃料補給を行う。

陸上での解装の手伝い、艇のラッシング(緊縛)の確認、忘れ物の確認、ゴミ拾い

出艇申告書へ帰着時間の記入

のこのこ業務日誌保管、当日乗船名簿の確認、部室内の収納状況、部室床の清掃。

< 出艇前の準備 >

キーと業務日誌、および船検証(艇内に装備)を持ち出艇申告後「のこのこ」へ

(GPSを装着しても構いませんが操作実習を受けた方しか使用できません)

レースは、レース結果記録用紙とエントリー表を忘れない様に。

以下、業務日誌に基づき始業点検を行います。

注意:最後の署名欄に署名された方がその日の責任者となります。

責任を持って任務に当たってください。

各部の鍵(4カ所)を外す。

ブリッジのオーニングを取りブリッジ前のシート下へ格納

メインスイッチを「2」に回す(スターンの右舷側ボックス内)

エンジンを降ろす(ラッチがかかっています)

(最上までチルトアップ ラッチを外す 最下へチルトダウン)

エンジン始動

(GPSを使用する場合電源は必ず OFF にする事)

(マルチレバーの中立を確認する)(前後に倒れているとエンジンは始動しません)
(安全キーを差込む エンジンキーを入れる 右に回す)(エンジンは自動制御)
(アイドルリングを上げる場合はマルチレバー横のボタンを押しながらレバーを前へ倒す)
(エンジンがかかったら冷却水が噴出されている事を確認する)
(燃料計を確認) 燃料が 1/4 以下の場合には必ず給油を行う(燃料系は目安です)
両側灯、停泊灯、ビルジスイッチ各スイッチのOFFを確認する。
海上で目立つ様にオレンジの旗(本船の意味)を掲揚する。

< 出艇 >

係留索3本(前方、スプリング、船尾(白))を先に解き、船首索と船尾索(赤)を最後にボート側に持ち込みます。

ポンツーンから離す。(船尾を離すと後進し易いがエンジンをポンツーンにこすらない様に注意)
微速左後進しながらセンターハウス側に艇を入れます。

< 操船 >

微速前進・微速後進

(アイドルリングを上げた時は元の位置へ戻す)
(「カチッ」と音がする位置まで「ポン」と倒す)
(倒し過ぎるとエンジンの回転数が急に上がり急発進する) 慎重に倒す事
加速・減速(必ず同乗者へ連絡し加速停止を行うこと)
(細かい操作を行う場合はレバーの根元付近を持つと調整し易い)
(荒天時は、波によりレバーが急に動く事がある為、必ず根元付近を持ち上体を安定させる)
人命救助の際は周囲の状況に気を配り的確な判断が必要です。
必ず風下より近づいた後、「エンジン停止！」後に救助に当たる事。
(風下からのアプローチはマーク回収時も同じでアンカーロープの保護にもつながります)

< 帰着岸 >

全員がスロープへ戻れた事を見届けてポンツーン(定位置)へ艇を戻します。

風向き、風の強さ、潮の流れにより大きく影響されます。帰着には細心の注意が必要です。

桟橋と平行に横付け使用とせず、桟橋の真ん中付近に船首を「こつん」と当てる感じで近寄る。

艇長の指示に基づきクルーは船首索を持ち飛び降りる事。

飛び降りたクルーは船首索をボラードに緩めに結びます。その際、船尾が桟橋から離れてしまいが焦りません。(船首索がボラードに固定された事を確認後、ラットを大きく左に切って微速後進をかけると船尾は桟橋に近づきます。)

< 帰着岸後の手順 >

エンジン停止・・・高速運転後はすぐにエンジンを停止しない。(エンジンキーを左へ一段回します)

エンジンを持ち上げる(チルトアップ)(停泊時)

(最上までチルトアップ ラッチを入れる エンジンがラッチで止る様にチルトダウン)

(チルト機構油圧系の負荷を減らす様に必ずラッチの上に降ろします)

メインスイッチを切る OFF に回す

係留(5本) 清掃 アンカー類の整理と清掃 デッキ内の泥を流す(バケツは船首ボックス内)

(デッキブラシは船尾内に収納) ブリッジにオーニングをかける

エンジンキーと船検証を持ち出す 係留の再確認

帰着申告 「のこのこ」業務日誌へ記録(不具合発生時は、掲示板等で直ちに連絡する)

以上